

## 平成30年度 【 学園研究費助成金&lt; B &gt; 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フナガ 福永 智子  
氏名

研究期間 平成30年度

研究課題名 明治～戦前期の女性の読書： 図書館利用の実態を中心に

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	福永智子	文化情報学部	教授
研究分担者			
研究分担者			

## 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

図書館情報学領域における明治～戦前期の図書館史研究では、図書館利用者の属する社会階層に配慮した研究の蓄積が十分ではない。誰がどのように図書館を利用したのか、社会階層別研究が必要であるが現状では限定的である。

一方、出版学や社会学の領域では読書史の研究が蓄積され、大正期には女性も雑誌や新聞を読み、読書の様態も限定的ではあるが解明されている。またその背景に女性の読書を快く思わない社会風潮があったこともわかっている。

そこで本研究では、明治～戦前期の女性の読書実態について明らかにするために、まずは女性の図書館の利用実態や女性利用者を支援する図書館サービスについて研究する。

## 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

[女性の図書館利用]

- ・研究領域：先行研究の把握や理論的枠組の構築のため、広く女性の読書研究の成果を探す
  - ・研究方法：史料調査とする（統計資料・個別図書館の業務報告・雑誌や新聞の記事など）
  - ・国立国会図書館デジタルアーカイブで統計資料等を調査する
  - ・地方図書館の事例として、愛知県を中心に公共図書館で図書館業務報告や統計を探す
- [図書館の読書相談サービス等利用者支援]
- ・公共図書館のレファレンスサービスと読書相談について規程類と実態調査を探す
  - ・公共図書館における読書相談とレファレンスについての議論を整理する
  - ・雑誌の読書相談コーナーの質問群を収集し、分析する

### 3. 研究成果の概要 (600 字～800 字程度で記述)

先行研究によると、戦前は女性の読書を否定的に捉える風潮があり、図書館の女性利用者は少なく東京でも男性の1割程度である。利用者は学生を中心とする若い女性が多く、結婚後の利用は稀であった。多くは受験準備や勉強のために来館し、娯楽図書の利用は少ない。明治から戦前まで婦人閲覧室が設置され、差別的であるものの女性が利用しやすい面もあり一定評価されている。しかし手狭なことから、女性は来館しにくい利用者であった。そのため婦人読書講座の開催(岩手県)、休館日を女性向けに無料開館(香川県)、婦人読書会設立と本の宅配(徳島県)など、女性利用者に対するサービス事例も僅かながら存在する。

多くの女性利用者は婦人閲覧室で勉強していたが、そこにはどの程度本が置かれていたのか。閉架書架が一般的であった当時、大勢の男性の中で目録を引くのは気後れがするという報告もあり、女性はどのように本を探していたのだろうか。どの本を読むべきか相談したいとき、男性と同じカウンターで質問したのか。そもそも当時の読書相談サービスやレファレンスサービスはどのように実践されていたのか。

本を探す行為自体が煩雑ないし困難であった当時、利用者支援はとくに重要であるにも拘らず、読書相談については社会教育の文脈で実施の報告があるものの、実情がよくわかっていない。そこでまず基礎的研究として読書相談サービスのあり方から検討することにした。

現在、公共図書館において読書相談サービスの実施率は高いものの、図書館界で公式に位置付けられず、共通理解が得られていない。レファレンスサービスの影に隠れるように実践されてきたのはなぜか、その理由について考察する。読書相談とはどういうものか、読書相談質問とレファレンス質問とはどう違うのかを明らかにするため、読書相談質問の事例集をもとに質問群を分類し、レファレンス質問との重なり具合や両者の違いについて分析した。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

① 婦人閲覧者	② 女性利用者	③ 婦人閲覧室	④ 利用者支援
⑤ 読書相談	⑥ レファレンス	⑦	⑧

**5. 研究成果及び今後の展望** (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

[公開済]

- ・福永智子「読書相談質問の類型化の試み：『本の雑誌』における読書相談を手がかりに」中部図書館情報学会. 2018年度研究発表会. 平成30年12月8日.

[公開予定]

- ・福永智子「読書相談質問の類型化とレファレンス質問との違いについて(仮題)」日本図書館情報学会 2019年度春季研究集会. 平成31年6月